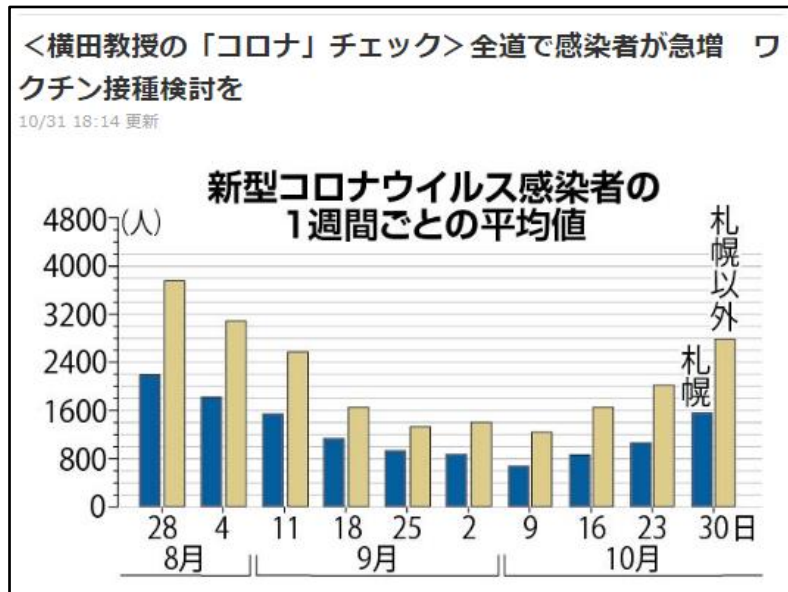


＜横田教授の「コロナ」チェック＞全道で感染者が急増 ワクチン接種検討を

2022年10月31日北海道新聞



全道の直近1週間（10月24～30日）の新型コロナウイルスの感染状況は、札幌、札幌以外ともに急増しました。予想を上回るペースで感染再拡大が続いており、どこまで増えるか見通しはまだつきません。寒さで換気がしにくいことや、人の行動が活発化していることが要因として考えられます。感染予防として迷っている人はワクチン接種を検討してください。

新規感染者数の週平均は、札幌が前週比47・1%増の1561・9人、札幌以外が同37・8%増の2789・4人でした。例外なく全地域で増加しており、中でも宗谷管内、小樽を除く後志管内、オホーツク管内は、現在の感染「第7波」のピークだった8月中旬に近い状況です。

これほどの急増は予想外でした。過去の感染拡大は変異株と派生型の流入によってもたらされましたが、7月以降、現在も流行の主流はオミクロン株派生型「BA・5」で変わっていません。

これまでの拡大局面では、行動が活発な20代の感染者が増え、市中感染が広がって全体の感染者数も増える傾向がありました。現在はそのような傾向がなく、直近1週間では10代が最も多く感染者の2割を占めていることも、これまでとの違いです。学校生活の中で感染が拡大しているのでしょうか。

基本的な感染対策に加え、感染予防としてはワクチン接種が有効です。27日時点の道内の接種率を見ると、12～19歳は2回接種済みが75%なのに対し、3回接種済みは42%と世代別で最も低いです。

ワクチンの効果が出るには接種から1週間ほど必要だと言われており、再拡大の局面だからこそ、接種を検討してはどうでしょうか。ワクチンによる感染予防効果は数カ月あると言われてしています。

再拡大の背景には、10月中旬からの全国旅行支援や水際対策の大幅な緩和で、人の行動が活発になっている影響もあるでしょう。一人一人が感染対策の意識を高く持ち、行動することが重要です。（聞き手・高木緑）